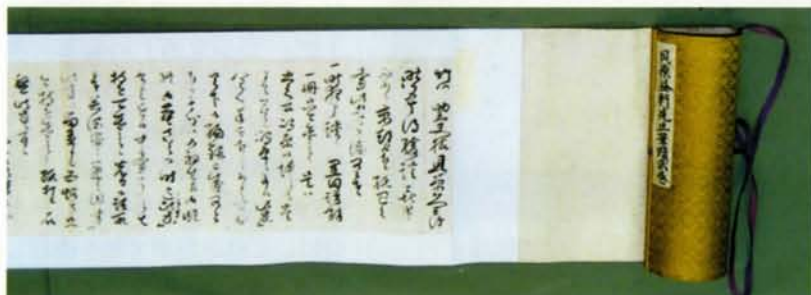


大野城市の文化財 3 (竹田家所蔵文書)

大野城市教育委員会



▲卷子八巻



◀貝原益軒直筆の書簡

竹田家の先祖、定直は1661年(寛文元年)京都に生まれ、17才で筑前福岡藩の儒学者貝原益軒(1630~1714)の門弟となりました。その後、益軒の指導と定直の持ち前の学才により益軒に信頼される学者となり、後年益軒のあとを継ぎ、その子孫も8代それぞれ儒学者として明治に至るまで福岡藩に仕えてきました。

定直は若い頃から師である益軒と多くの手紙を交わし、益軒が没するまで続いています。また益軒からの手紙はすべて大切に保存していました。その手紙によると2人の師弟関係がよくわかるそうです。益軒はたくさんの著書を著していますが、定直はその著述に助力をした人でもあります。竹田家所蔵文書の整理にかかわられた故伊東尾四郎氏によると、益軒が残した郷土関係の二大著書である筑前国統風土記および黒田家譜には、定直の手が多く加わっているといわれていますが、手紙の内容もこの両著に関するものが大変多いそうです。

同家には定直の師である益軒の書をはじめ、定直以下8代の長年にわたる多くの貴重な文書・筆蹟などが所蔵されています。その中で特に貴重なものとして、卷子(巻物)八巻および、附

「筑前国統風土記」「黒田家譜」各一揃いの書冊が1960年4月12日に福岡県文化財として指定を受けています。



筑前国統風土記三十一卷（上）と大城山についての記述（下）

えてあり、定直校正本の最後のものだとされています。伊東氏の解説によれば、この書は1688年（元禄元年）益軒が59才の時に着手し、同74才の時に編集され、その後更に改訂を加え、1709年（宝永6年）80才の時完成し、翌年藩主のもとに上げられたそうです。なお、伊東尾四郎氏編集の福岡県史資料続四輯（1943年3月発行）はこの所蔵書冊が原本です。

また、同家所蔵の「黒田家譜」正十五卷及び、続六巻も「附」として一括指定を受け、大野城市では最初に県の指定を受けた文化財です。

黒田家譜一揃 ▶



卷子八巻には次のようなものが収めてあります。「貝原益軒先生筆蹟」全二巻に収めてある益軒の書簡十七通は、故伊東尾四郎氏の整理になる代表的なものであって、師益軒と定直の師弟関係を知る上での貴重な資料です。また「竹田家代々之筆蹟」の一巻には定直以来代々一家の人々の筆蹟、「他來諸名家之筆蹟」四巻には定直と交わりがあった儒学者荻生徂徠や菅茶山などの著名な人の文書・筆蹟など、また、第九代定猷が長崎に遊学したときに師として、或いは親交があった中国の諸学者の筆蹟を収めた「清朝人士之筆蹟」の一巻などです。

益軒の高弟であった竹田定直は、益軒のもとで「筑前国統風土記」「黒田家譜」の編集に携わり、益軒の著述に最も助力をした人だと言われています。「筑前国統風土記」は末永為順（虚舟）によって清書されたものに、定直が自筆で処々改訂し、ことに卷三十一を拾遺として添